

第12回 留学生による 日本語作文 コンクール

入選作発表
2005年9月



主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター

大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金について

1989年2月、当クラブは、RI第2660地区のインターシティ・ゼネラル・フォーラム（IGF）第6組の主催クラブとなり、そのテーマに「留学生問題を考える」を選定。大阪市立大学前学長木村英一氏にコーディネーターをお願いし、関西国際学友会専務理事浦野吉太郎、大阪市立大学教授佐藤全弘の両氏を講師として「留学生をめぐる現場から」という演題の基調講演をして頂いた。

またそれに引き続き、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、関西大学、関西国際学友会日本語学校よりの男女計35名の留学生

を囲むバズセッションを13クラブ約300人のロータリアンの参加で開催して、留学生に関する認識を深めることができた。

このIFGが契機となり、同年7月の創立5周年記念事業の一環として当クラブ独自の国際交流基金の設立が決議され、クラブ内で募金を開始した。基金の事業目的は「外国人に対する日本語教育の振興による国際的相互理解の推進」と定められた。

創立10周年を迎えた1994年、基金の利息と年度内の募金を原資に、上記事業目的に添って運営を開始したものである。

大阪日本語教育センターの留学生による 日本語作文コンクール

当クラブは例年、鶴見区民まつりに「国際交流コーナー」で参加、地域社会とのふれあいを深めている。この催しには、第2660地区への青少年交換学生とともに大阪日本語教育センターの留学生（旧関西国際学友会日本語学校）も招待されている。

同センターと当クラブは、上記IGFを含めて特別にご縁があり、国際交流基金運営の最初の事業として、同センターの学生を対象に日本語作文コンクールを開催することになった。

このコンクールは1994年を第1回とする5年間の継続事業として始まり、1998年に5年間延長された。第10回

を終えるにあたり継続の是非が議論されたが、コンクールの方法を一部見直した上で引き続き実施することとなった。

この12年間に日本語作文コンクールに応募された作品数の年次推移は、次ページの表と棒グラフに示す通りであり、第10回からの応募作品の減少は、生徒数の減少によるものである。

このコンクールへの応募資格は、大阪日本語教育センターの留学生（4月末日現在）で、同センターのスピーチコンテストに準じて初級、中級、上級とクラス分けをし、日本語習得年限によるハンディキャップの解消を狙って

いる。表彰の内容は各級とも最優秀賞1名5万円、優秀賞2名2万円、審査員特別賞1名2万円となる。審査員特別賞は、非漢字国出身者に贈られる努力賞であり該当する作品があれば選出される。なお、選に漏れた応募者全員

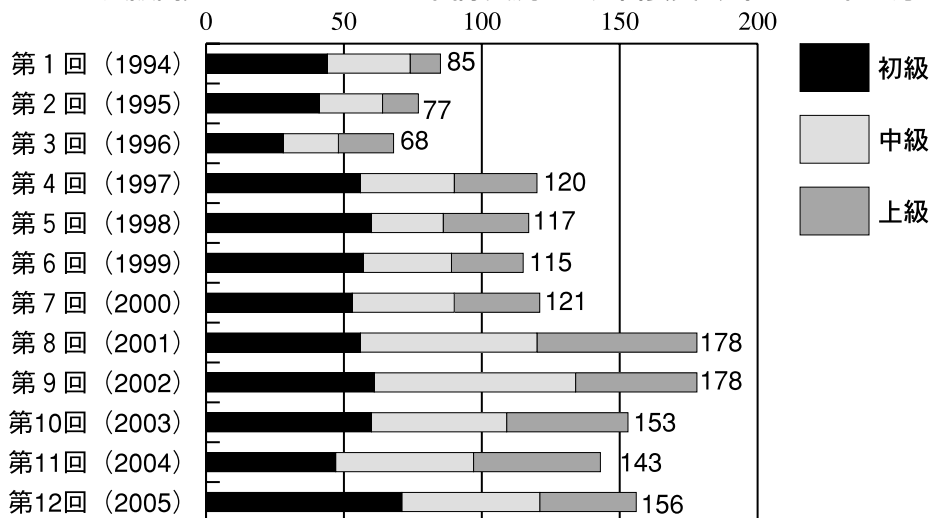
に参加賞が贈呈される。

作文のテーマは自由であるが、原稿は自作、かつ自筆・未発表のものに限られ、クラブ会報等への掲載の権利は当クラブが有している。

大阪日本語教育センター 留学生参加 日本語作文コンクール応募者数の推移

	初 級	中 級	上 級	総 数
第1回 (1994)	44	30	11	85
第2回 (1995)	41	23	13	77
第3回 (1996)	28	20	20	68
第4回 (1997)	56	34	30	120
第5回 (1998)	60	26	31	117
第6回 (1999)	57	32	26	115
第7回 (2000)	53	37	31	121
第8回 (2001)	56	64	58	178
第9回 (2002)	61	73	44	178
第10回 (2003)	60	49	44	153
第11回 (2004)	47	50	46	143
第12回 (2005)	71	50	35	156

大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金運営委員会 (2004年7月1日)



第12回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

邛 运 (中国) トウ ウン
「はじめての花見」

優秀賞

金 志泳 (韓国) キム ジョン
「二年間の旅行」

審査員特別賞

ウーガンバヤル (モンゴル)
「日本に来て思ったこと」

KEMPER PAULO FILHO (ブラジル)
ケンパーパウロフィリオ
「日本の生活」

中級

最優秀賞

張 鳴 (中国) チョウ メイ
「花見に行こうよ」

優秀賞

毛 竟 (中国) モウ キョウ
「自分に同情するな」

孫 曉峰 (中国) ソン ギョウホク
「芸術、そして
私が日本でめざす3Dアニメと油絵」

審査員特別賞

リー チェンハン (マレーシア)
「人生」

上級

最優秀賞

孫 毅 (中国) ソン キ
「父の日のプレゼント」

優秀賞

王 思陽 (中国) オウ ショウ
「憎らしかった母」

刘 柳 (中国) リウ リウ
「幸せ」

審査員特別賞

広瀬バプロ (チリ)
「私はチリからきました」

初級参加者 72名

邛 运 (中国)	DAN DAVY (カンボジア)	呉 信憲 (台湾)
金 志泳 (韓国)	PHANANUKOON ANUPHAN (タイ)	TRINH KHANH LINH (カナダ)
ウーガンバヤル (モンゴル)	張 婷 (中国)	藍 宏傑 (台湾)
KEMPER PAULO FILHO (ブラジル)	徐 莉莉 (中国)	余 麗琄 (台湾)
王 溢穎 (中国)	PALMONES ALVIN SORIANO (フィリピン)	張 晶晶 (中国)
李 艷 (中国)	GANBAATAR NOMIN (モンゴル)	招 蕾 (中国)
卢 崇烜 (中国)	SYPHOXAI SOULIVONG (ラオス)	姜 林林 (中国)
孟 繁博 (中国)	CARO CATANO LEONARDO (コロンビア)	王 麗娜 (中国)
姜 鈺偉 (中国)	KOHLI NALIN (インド)	KHIAOKHAM SANTI (タイ)
孔 令玉 (中国)	TENZIN DHEMI (ブータン)	李 大榮 (韓国)
杜 鵬 (中国)	ISLAM MOHAMMAD ARIFUL (バングラデシュ)	WIJESEKERA KAPILA EDGAR (スリランカ)
葉 紫燁 (中国・香港)	GARCIA ROMMEL CHAVEZ (フィリピン)	高イェナ (韓国)
POH SU ZHEN JESSIE (シンガポール)	VELASCO OBLADEY REA (フィリピン)	LIEN THI KIM HANH (ベトナム)
刘 毅 (中国)	ALOOT KRISTINE JOY PONCIANO (フィリピン)	孟 慶娜 (中国)
廖 慧玟 (台湾)	ESPINOSA JEFFREY JAVIER (フィリピン)	MARRY GRACE P.BEDONIA (フィリピン)
胡 宇 (中国)	PAMPLIEGA ROSBELLE VECERA (フィリピン)	張 鐘尹 (台湾)
方 雯江 (中国)	KOIYE KOLEN THOMAS (パプアニューギニア)	程 志遠 (台湾)
王 鑫 (中国)	WONG LENARD GARY CRYSTAL WALTER (フィジー)	LIM HOOI CHUEN (マレーシア)
鮑 巍 (中国)	WATAK ISAAC (マーシャル諸島)	刘 洋 (中国)
袁 永堯 (中国)	EKLOU DAMIEN KOUAKOU (コートジボアール)	賴 玉佩 (台湾)
王 黎君 (中国)	MAKILI JUMANNE MARO (タンザニア)	THEPPRADIT UMAPORN (タイ)
車 丹丹 (中国)	李 大薰 (韓国)	郭 穎 (中国)
JAIN VASUDHA (インド)	侯 彦希 (台湾)	MESHULAM DANY (イスラエル)
MAHINDRA ANDRE (インドネシア)	YOHAN KAMADJAJA (インドネシア)	

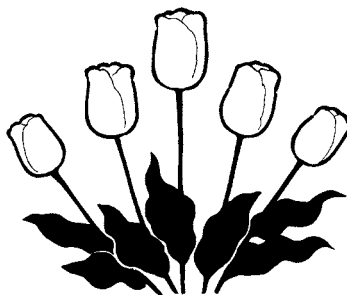
中級参加者 50名

張 鳴 (中国)	李 炘珍 (韓国)	曾 唯紅 (中国)
毛 竟 (中国)	牟 晓宁 (中国)	黄 如玉 (台湾)
孫 曉峰 (中国)	蔣 克儉 (中国)	KHONGSAK SIRIKARNJANARAK (タイ)
リー チェンハン (マレーシア)	常 樂 (中国)	CHANIKAN SAWAENGNIL (タイ)
金 明辰 (韓国)	崔 晓博 (中国)	ATCHARA INTANA (タイ)
錢 進 (中国)	MYRIZKI SANDHI YUDHA (インドネシア)	林 芝安 (台湾)
吳 琳 (中国)	趙 琦 (中国)	陳 正雅 (台湾)
KOR BOON KENG (マレーシア)	元 始辰 (韓国)	趙 志燁 (中国)
潘 丕娟 (中国)	宗 澤皓 (中国)	GINA LEE (アメリカ合衆国)
李 旻燮 (韓国)	郭 俊博 (中国)	簡 逸瑄 (台湾)
楊 銘 (中国)	MAHARAJAN URMILA (ネパール)	呂 元傑 (台湾)
孫 雪 (中国)	金 雨婷 (中国)	周 婕瑜 (台湾)
徐 凡 (中国)	兰 雪 (中国)	尹 東賢 (韓国)
王 露云 (中国)	宋 佳 (中国)	曹 娉 (中国)
郭 艷霞 (中国)	韓 华劍 (中国)	李 宣勉 (台湾)
秦 瑛 (中国)	HERMANTO (インドネシア)	HOROZOGLU ULAS (トルコ)
謝 燕 (中国)	KEOHAVONG PHAIPADID (ラオス)	



上級参加者 35名

孫 毅 (中国)	張 敏 (中国)	楊 文輝 (中国)
王 思陽 (中国)	龐 東来 (中国)	宋 政 (中国)
刘 柳 (中国)	徐 志 (中国)	韓 楊 (中国)
広瀬パブロ (チリ)	KUEK YANG YONG (マレーシア)	AMADO A CABALLERO.Ⅲ (フィリピン)
呉 成奎 (韓国)	姜 力璋 (中国)	朱 文廷 (中国)
刘 一伊 (中国)	曹 俊 (中国)	程 成 (中国)
薛 家愚 (中国)	呉 玫瑛 (台湾)	謝 佳真 (台湾)
張 繼祖 (台湾)	楊 明明 (中国)	吳 雅楠 (中国)
任 超 (中国)	VINI KARINA SUHARTO (インドネシア)	呉 宣旻 (韓国)
牛 奔 (中国)	徐 于婷 (台湾)	歐 建興 (台湾)
解 元 (中国)	呉 思佳 (台湾)	刘 迪 (中国)
郭 甜甜 (中国)	陳 菱穎 (台湾)	



はじめての花見

邓 运 (中国) トウ ウン
最優秀賞 (初級)

私は今年の春、中国から日本へ来ました。日本に来たとき、ちょうどいろんな花が咲く時期でした。日本では花の種類が多くて、色もとても艶やかだと思います。毎日学校へ通学する途中にたくさんの名を知っている花と知らない花を見ることができます。日本で一番綺麗な花は当然日本の国花の桜です。日本に来る前に本やテレビ番組を見て、日本の桜がとても綺麗だという印象がありましたが、今度やっと桜の花見を楽しむことができ、本当に嬉しいです。

日本は東西が狭くて南北が長いです。地方によって桜の満開の時期が異なります。南の地方九州などは三月下旬に咲きますが、北の方北海道などの桜の満開は五月になります。ことし大阪で桜は四月中旬に満開になりました。

四月十日に主人と一緒に大阪万博記念公園に花見に行きました。そのとき、天気はとてもよかったです。万博記念公園はかなり広くて自然文化園や日本庭園などいろいろのところがあります。桜が一番綺麗なところは自然文化園ですから、主人と自然文化園に入

りました。公園の中には予想通り人が大ぜいいました。皆は桜の木のしたに座って友達と話したりビールを飲んだりゲームをしたりしていました。桜はもう満開していました。以前から中国でテレビ番組を通して、日本の国花は桜だということを知っていました。今回花見を楽しんでいる大ぜいの人をみると、日本人が本当に桜が好きなのがよくわかりました。

主人はアイスクリームなどを買ってくれました。二人は桜の木のしたに座って、おべんとうを食べながら綺麗な桜の風景を楽しみました。日本に来てから二、三ヶ月ですが、こんな経験をすることでだんだん日本が好きになっています。

二年間の旅行

金 志泳 (韓国) キム ジヨン

優秀賞 (初級)

私は十九歳の時、怖いのはなにもなかった。その時はもし私が明日死ぬとしても後悔しなかっただろう。なぜなら私は何も考えずにただその日を生きていたからだ。朝起きてテレビを見て、友達と遊んで、酒を飲んで、たまにケンカもして、また寝る、そのような毎日を過ごしていた。私の家族はそんな私を、とても心配していた。しかし、その時の私は心配してくれる家族のことを全く考えなかった。そして、父との関係もだんだん悪くなった。

韓国には徴兵制度があるので、二〇〇二年十月二十二日、二十歳で私は軍隊に入隊した。今までの生活とちがう環境になったから始めは適応することがむずかしかった。全ての生活が決められていて、自分の時間はちっとも与えられなかった。適応するのに三週間かかった。その間になんども昔の生活に戻りたいと思って、同時に変わらなければならないとも思った。いつのまにか、一ヶ月が経って、訓練所を退所した。そして軍楽隊に配属された。入隊前、私は楽器を演奏した事があるのでその面では別に問題がなかったが、上下関係がとても厳しかったから始め

は困った。

軍楽隊では月に一度お葬式があった。その多くは軍隊で自殺した人々のお葬式だった。私たちは毎月お葬式の場所に行って楽器を演奏した。その時私は「自殺するのはとても勇気がいる。その勇気があればどんな苦難でものりこえる事ができるだろう」と思った。二年の間ずっとそう思って過ごした。二〇〇四年十一月二十九日に私は徴兵を終えて除隊をした。長いようで短い二年間だった。

その二年間私はおおくの事を失った。同時におおくの事も得たと思う。ただ、はっきりしたことは二度とむかしのような生活はしないということだ。「TIME IS GOLD」ということばがある。そのように一生懸命毎日を過ごしたい。

日本に来て思ったこと

ウーガンバヤル（モンゴル）

審査員特別賞（初級）

私はモンゴル人です。日本に来て十か月になります。さいしょとても便利でびっくりしました。したいと思ったことは何でもすぐにできるからです。たとえばおなかがすいたらすぐにコンビニでお弁当を買ったり、ラーメン屋でラーメンを食べたりできます。その上とてもおいしいです。電車やバスもあんまり待たないでのれるし、とてもはやいです。そしていつも「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」と言って、かんしゃの心を持っています。モンゴルにはありませんから、とてもびっくりしました。

もう一つびっくりしたことがあります。それはわかい人達のことです。たばこをすって、おさけを飲んであそんでばかりいます。電車の中で若い人達がすわっていて年上の人達が立っています。何をして、どうやって生きていくかわかっていないようだと思います。

日本は小さい島国ですが、とてもはってんすることができました。それは人々がそれぞれとてもがんばったからだだと思います。それを理かいして、そんけいすればよい心を持つことがで

きるようになると思います。

モンゴルもチングスハンが国をとった時とても大きな国でした。人々はみんなもっと大きなすばらしい国にしたいと思って生きていました。とてもがんばっていました。でも今のモンゴル人はその心を理かできません。だからなかなかはってんすることができないのです。

私は日本でたくさんのかんしゃを学んでモンゴルに帰りそれを若い人達に教えようと思って、一生けんめい勉強しています。

日本の生活

KEMPER PAULO FILHO (ブラジル) ケンパー パウロ フィリオ
審査員特別賞 (初級)

「日本の生活はどうか?」とよく聞かれます。外国人が日本へ来てからの新しい生活を描写するのはそんなに易しくないです。いいかどうか。これに答えるのは日本の生活を描写するより難しいと思います。

たぶん一番いい答えは文化の違いです。日本の文化はユニークなのです。ブラジルの文化は日本の文化と違います。大変違うわけではありませんけれども時々その違いは何となくおかしいです。たとえば、日本ではいつも店に入ると店の人が大きい声で「いらっしゃいませ!」と言うので、私は自分で笑います。このような冗談のような違いのほかに、もっといみのある違いは日本人の挨拶です。日本人は人にふれないで、握手もしないで挨拶しますが、ブラジル人はだきしめて挨拶します。そのため、日本人は時々ブラジル人にとってつめたい人に見えます。そのほか、ブラジルの文化よりもっときちんとしているところがあります。日本人には時間厳守という考え方があります。ブラジルでは十五分遅くても大丈夫です。こちらでは五分でも遅刻するなら待っている人に知らせなければ

礼儀正しくありません。

もしさっきの質問の一番いい答えが文化の違いなら二番目は家族とのきよりです。日本は島国だから全ての国が遠いです。ひこうきでしか行けません。電話と手紙とメールがあるけれどもそれは相手が見えない話です。だれでも本当の会話の方が好きです。ほとんどの外国人は一人で国へ帰らずに日本に住んでいるので、だんだん家族に会いたいきもちが強くなっていきます。とくに誕生日やクリスマスの時にとっても寂しくなります。

「日本の生活はどうか?」に答えるのはまだ難しいです。いいとか悪いとかはわかりませんが三ヶ月ぐらい日本で生活してただ違うということだけはよくわかりました。時々寂しい時もあります。日本ではたくさんの楽しいことがあるでしょう。もしそれを早く感じる事ができれば日本の生活もそんなに難しくありません。

花見に行こうよ

張 鳴（中国）チョウメイ
最優秀賞（中級）

私は冬が終わって、春を迎える季節に留学生として初来日しました。やっぱり初めて家を離れて異国へ勉強しにくるということで、心の底でちょっと不安なものがありました。けれども、日本には親戚もいます。いここは今和歌山県の和歌山市に住んでいます。大阪に近いので、日本についた日、いここは関西空港に迎えに来てくれました。私は「よかった」とほっとしました。

来日して最初の日は、いここと一緒に過ごしました。その日の夕方、いここはにっこりして、聞いてくれました。「君は今日本へ来たばかりなんだけれど、どこか遊びに行きたいところがありますか。」「日本に来たからには、当然中国と違うところを見学したいんですよ。」と私は答えました。「それじゃ、花見に行こうよ」「花見？ なんですか、それ？」「花見というのはさくらの花を見に行くということです。実は、今だけでなく、日本人のみなさんは毎年毎度も花見によく行き、一緒に食べたり、飲んだり、しゃべったりしています。さくらといえば、日本

人にとって、特別な意味もあるし、花見は日本らしい、他の国ではあまりない特別ななくてはならないものですよ。」いとこのいろいろな話を聞いたあとで、私も中国で聞いた日本人とさくらに対しての感情などさまざまなことを思い出しました。けれども、どうして日本人はそんなにさくらが大好きですか。どうして日本人は老若男女に関係なく、地域も分けなく、毎年毎度花見に行くのか理解できませんでした。そういうような疑問を持っていたので、私も見に行きたかったのです。一体魅力はどこにあるのか自分自身で体験すべきだと思っていました。

三月の終わり、関西ではさくらはまだ咲きませんでした。でもいとこの話によると四月の始めに見られるとのことでした。毎日テレビの中でさくらについての前線報道も放送していました。私もみんなと一緒に期待していました。

さわやかな夕方、ちょっとずしい感じがした日に、私といここは和歌山城公園へ行きました。公園の外に、きれいなみどりの堀が城の回りにあ

りました。大手門に入ってから、目の前はさくら並木の道でした。やっと見ることができたさくらの様子、さくらの木はあまり高なくて、花は淡いピンクで、香りもありました。「本当にきれいですね。なんだかお花がニコニコ笑っているみたいですね。もう満開ですよ。」「さすがさくらですね。」思った以上のそんな美しい景色を見ると、どうしても、おどろかずにはいられなかったのです。吹き止まない春の風に花びらが舞い散っていました。それをみると心の中で言葉で言い表せないくらい感じるものがありました。たぶん幸福感でしょうか。夕陽の中で、咲き誇っているさくらの真下で、人々は輪になって座って、語ったり笑ったりしていました。どの人も食べ物やおさげなどを持って来て、宴会を行っていました。家族全員もいたし、会社の同僚たちもいたし、若者たちもいました。とてもにぎやかな花見でした。

その時、さくらが舞い散る中で、私は初めてわかりました。たぶん日本人がさくらを好きな理由はさくらのように、美しい人生を持っていたいからではないでしょうか。その時、私はふるさとを思い出しました。同じ春風、同じさくらの舞う季節、違うのは場所でした。家族の全員がこのさくらのように、末長く健康で幸せでありますように。家族がさくらと同じように美し

い人生を持てるようにと心の中で強く願っていました。

自分に同情するな

毛 竟 (中国) モウ キョウ
優秀賞 (中級)

父親は殺され、母親は病気で仕事ができなくなり、二人の弟がいるまだ八才の女の子が毎日ゴミの山で使えるポットやプラスチックを探している。今の彼女は家族の生きていく力だけど、それだけしかできないのだ。家はというとゴミの山の上に木で作られた三畳ぐらいの小部屋。不思議と言うか言葉に絶すと言うか、食事はなんと三日に一回だけ。その三日に一回だけの食事もわずかな量の米しかない。一番量の多いのは一番年下の弟に与え、お腹がすいていても、次回の食事は二日後。見せてくれた自分の宝物は以前学校に通っていた時の英語の教科書で、学校に通っていた時一番好きな科目は英語だったそうだ。毎日寝る前に必ずその教科書を読んでいる。

もう一人の十二才の男の子も、母親は病気でなくなり、父も病気で働けなくなって、父親に「働け」と言われ、鉱山で働き始めた。鉱山での仕事はとにかく大変で、毎日十時間ぐらい石を爆破したり、運んだりしている。それに、空気が薄くて、日当たりも悪く、空気には石粉が多い

ためその石粉が肺にたまって、長年この仕事をしてきた人が六十才まで生きられるのはまれだ。

以上述べてきたのは、テレビで見た番組に出てきたことです。もちろん自分の国のことでも日本のことでもないのですが、ほかの国のことであるにしても本当に同じ時代に生きているとは思えないのです。彼らと比べて、私たちの生活はどんなに幸せだろうと思うとともに、私はつくづく自分の弱さを感じます。子供のころのことを思い出してみると、本当にいい思い出ばかりだった。それなのに、生まれてから今までずっと親に面倒を見てもらっている私はちっとも幸せだとは思わないで、小さなことでくよくよしたり、自分の不幸を嘆いたりすることもしばしばあります。こんな私みたいな者がこの世の中にはいっぱいいます。一緒に日本に来た人ならだれでも来る前に「若い時の苦勞は買ってでもせよ。」という言葉が家族にも自分にも誓ったはずなのに、実際に来ると、もともと国公立大学を目指していた人がアルバイトに走ったり、稼いだお金を

ブランド品や遊びに使ったりすることも少なくありません。アルバイトをしていないのに、勉強もしないで一生懸命恋人を探している人もいます。今の私は節約しながら勉強で充実した毎日を送っていますが、親のお金を使って楽な日々を過ごしている人を見ると、やりぬこうとする決意が揺らがないこともないのです。では、どんなことをして自分の決意をかためて最後までやりぬけるのでしょうか。それは自分に同情しないことです。困難にあった時や苦勞する時などに逃げようとするのは弱虫です。恐れても逃げないで、最善を尽くして挑まない限り、立派な人間にはなれないのです。

日本の千円札に載っている野口英世は自分に同情しないで、一生懸命頑張って立派になった人の代表です。彼の家は大変貧乏で、母親が畑へ出ていた時、火の燃える囲炉裏に落ちて、左手はひどいやけどで握られたまま開けなくなってしまった。そのせいで、学校でよくいじめられて、学校をやめようとしたことはないでもないが、お母さんに励まされ、自分に同情することをやめて、自分をいじめる子供に負けないように、一生懸命勉強し始めた。とりわけ感心させられるのは働きながら猛勉強のすえ、当時合格まで七年もかかると

言われた医師の国家試験にわずか一年で合格したということです。

「自分より不幸な人がいっぱいいるのだから、どんな困難にあっても逃げるわけにはいかない！ どんなに苦勞しても自分に同情しないで、頑張り続けてください！」こそ私が言いたいことです。もちろん私自身も頑張ります。自分の人生に悔いを残さないためにも。

芸術、そして 私が日本でめざす3Dアニメと油絵

孫 暁峰（中国）ソン ギョウホウ

優秀賞（中級）

日本の現代の美術といえば、なんといってもアニメと漫画があげられます。その中でアニメは子供から大人まで好きなものです。ぼくの趣味は3Dアニメを作ることです。中学生時代から自分でパソコンで簡単なアニメを作り始めました。しかしその時はどうしてもいい作品を作ることができなかつたし、作ることができてもきれいではない時もありました。作り方だけでなく、絵を描くことも学ばなければなりません。それで高校二年生の時に絵を習い始めました。そのうちに、絵を描くことが大好きになりました。

国で絵を勉強している時に、日本のアニメの巨匠である宮崎駿先生が中国でスピーチをしたことがありました。幸いにもその時ぼくは拝聴することができました。先生がアニメについてたくさんのお見解を持っていることとか、絵の配色をどのように工夫しているかとかは前は気がつきませんでした。特に民族の文化を自然にアニメの中に入れるのはとてもすごいことです。たとえば『平成狸

合戦』の作品の中では小さい動物たちが民族の着物を着て、民族の歌を歌ったり、民族のダンスをしたりするし、『螢の墓』では日本人と戦争の関係をよく表現しました。それで子供たちがそれらを見たら自然に自分の民族の文化を知ります。以上から言えることは、技法だけでなく、芸術を理解し、生活自体を熱愛することも必要だということです。そこで私は絵を描くことと3Dアニメの作り方を学ぼうと思って日本へ来ました。

ヨーロッパ印象派ビンセント・ファン・ゴッホは早期の作品で日本の「浮世絵」のように描いたこともあります。そのように世界で百年前から日本の芸術はそんなに重要な地位があります。だから日本を留学する国に選びました。その目的があるため日本語もよく習わなければならないと思います。

今月はファン・ゴッホの展覧会が大阪市国立国際美術館で開かれています。さっそく日本の友達と一緒に見に行きました。ぼくは生まれて初

めて真のゴッホの作品を見ました。何とも言えないさわやかな気持ちになりました。美術館の中は一面油絵の具のにおいに満ちていました。外ではずっとたくさんの見ようとする人々がチケットを買うために並んでいて、待ち時間は四十五分かかりました。絵を見ている時も人々はきちんと並んでいました。とにかく日本では芸術かんしょうをするのが好きな人が一杯いると思います。びっくりしました。

一方、日本人の友達の学校の卒業展覧会も見に行きました。たくさんの学生たちが授業の時作ったパソコンゲームも見ました。すごかったです。3DCGアニメからブクレムまで全部学生が自分で作りました。むずかしいにちがいありません。

以上、日本で芸術とか3Dアニメとかいったことを勉強したければ日本語の力がなくてはなりません。私は日本へ来ました。今は日本語の勉強をしています。それだけじゃなく、主に絵を描くことの勉強と3Dアニメを作る時どのようなことに力を入れて絵を描くのか、その方法を大学で学ぶつもりです。大学では先生が授業内容をももちろん日本語で説明します。それでまず今は絶対一生懸命日本語を勉強しなければならないと思っています。

人 生

リー チェン ハン (マレーシア)

審査員特別賞 (中級)

人生、簡単な言葉です。意味は人として生きることなんです。でも、何のために生きているのですか。人生の目的は何ですか。人生において何をしなければなりませんか。小学生の時から学校でいつも先生にいろいろな人生の道理を教えていただきました。十九年間の人生経験はほんの僅かですが、私が今までに得た四つのことを次に挙げてみます。

まず「礼儀と謙虚」幼稚園のころにはもう習った言葉です。目上の人の前で礼儀を欠いてはならないという意味です。が、後輩の前であっても謙虚な態度を忘れてはなりません。特に留学生活ではこの二つの態度が重要です。この態度で先輩からいろいろの知恵を学んだり、高ぶらないで人の意見をよく聞き入れると留学生活はもっと順調に送れることでしょう。若い時に勤勉さで経験不足を補うのは尤もなことです。

次に「お互いに尊重する」これは小学生のころ担任の先生に教えていただいた道理です。他人のことを尊重する人は自然に他人も自分のことを尊重しています。宗教、国籍、

色、階級、それに肉体的や精神的な違いがあっても人間として他人の思想、他人の全てを尊重しなければなりません。時々、答えは是か非かで決まるものではありません。お互いがお互いの意志を尊重し和を創ってゆくものなんです。だから、お互いに尊重する、理解し合うことは不可欠です。

三つ目は「頑張る」国でも日本でもよく他人に言われる言葉です。日本へ来る前に父は私に「留学生になった。以後の生活でいろいろな困難に直面するかもしれない。でも、恐れないうで勇敢に立ちむかいなさい。君は温室育ちの子供じゃない。だから、頑張れ！」と言ってくれました。父のはげましの言葉のおかげで初めはひらがなも知らなかった私が、今是这样して日本語で作文が少し書けるようになりました。「頑張る」ということは人生の中でなくてはならない精神です。頑張って自分の欲することを追求します。よしんば失敗したとしても、自分はよく頑張ったと思ったら、悔しいことはありません。

最後は「自らを肯定する」人々は

他人に肯定されるためにいつも自らの能力を証明しています。もし他人に褒められたら気持ちがいいのは当然なことです。けれども、反対に否定されたらがっかりするかもしれません。他人に肯定されることは必要ですが、自分で自らを肯定することも必要です。というのは自分の能力は自分が一番分かっているからです。仮に何度も他人に批評されても気を落とさないうでしっかりして前よりいっそう頑張ります。だから、どんな事をする時でもあれこれとくだらないことを思いめぐらさないうで、じっくり自分の事をします。自らを肯定するのは自分です。他人ではありません。というのは自分は自分ですから。

以上が私が十九年間の人生で得た言葉です。多分このぐらいの人生はまだほんの僅かなのでしょうが、私にとってなくてはならない宝物です。人生はとても長くて、途中で転んだり自信喪失したりしたとしても不思議ではありません。でも成し遂げたいのなら何が起きようと揺らぐことのない、断固たる決意が必要なんです。これでまた有意義な人生になります。私が感銘をうけた言葉がもう一つあります。最後に皆さんにご紹介しましょう。

「生命はなにより尊い。今を一秒でも無駄にする事は自分の命を侮辱

するという事だ。たとえ明日までしか生きられない命でも、今日を精一杯生きろ。明日のきれいな朝日と一緒に見る仲間をつくるには十分な時間だ。だからこれからこの言葉を肝に銘じて生きていきなさい。『今日一日を大事に精一杯生きろ！！自分のためにも他人のためにも。』」

父の日のプレゼント

孫 毅（中国）ソンキ

最優秀賞（上級）

今日は六月十九日、父の日です。命を与え、また育て上げてくれた父親たちに感謝の気持を伝えるための日です。町中には父親の幸せそうな笑顔があふれているようです。私も父親の前で心を込めて、「お父さん、ありがとう」と言いたいです。それは無理だと知っているのに。机に向かって私は父親への思いに浸り、父親と二人で並んだ写真が目に入ると、涙はあふれてきてとまりませんでした。

これは三年前のことですが、当時の情景は今日のことのように、はっきりと記憶に残っていて離れません。父親は家計のために、身を粉にして働いていました。家族そろって食事するどころか、会える機会も少なかったのです。私は父親が仕事にかまけ、家族のことを考えないので、私などどうでもよい存在なのだと思います。よくむかっばらを立てました。

私の誕生日のその日、いつものように、母と二人で過ごすのだろうと思いましたが、意外のことに、父親は「今日は早めに仕事を終えて、お前に誕生日の祝いをしてやろう。」

と言ってくれました。いつか父と母と三人での誕生日を過ごせたらと期待していた私は、飛び上がるほどうれしかったです。そこで、さっそくスーパーへ行って、食材からワインやケーキまでいろいろ買ってきました。そして、母に山ほどのごちそうを作ってもらいました。

ところが、午前零時まで待っていたのに、父親はまだ帰ってきませんでした。結局、「急に用事ができたもんだから、帰れなくなった。」という電話だけがかかってきました。私は腹が立って、つい電話で約束を破った父親と大喧嘩をしてみました。そして、テーブルに並べきれない料理を一口も食べずに、自分の部屋に閉じこもりました。込み上げてくる涙はどうとう押さえられなくなり、大声で泣き出しました。

次の日の朝、父親は帰ってきて、「きのう、ごめんな。」と声をかけてくれましたが、私は顔をそむけて相手にしませんでした。父親はまた何か言ったか言わないかのうちに、私はわざと耳を塞いで、聞こえないふりをしました。父親は徹夜して仕

事したせい、目が充血して赤く見えました。その後、何も言わないで、そのまま家を出ていきました。

まさかこれが父親との最後の別れだとは思いませんでした。父親は勤め先からの途中で交通事故に遭い、母と私と永遠に別れたのです。いくら泣いても叫んでも、私のかげがえのない父親は二度と戻りませんでした。父親と喧嘩をしなければよかったのに、父親の苦労を十分に理解できればよかったのに、もっと父親と話せばよかったのに、まだ一度も父親孝行をしたことがなかったのに……今となっては、何を言っても、後悔先に立たずでした。その後、父親の遺品の中に、きれいな紙で包まれていた本が見つかったということがわかり、悲しくてたまりませんでした。

悲しみに打ち拉がれた日夜を過ごし、あっという間に、もう三度目の夏を迎えました。今日本に来て三カ月になろうとしています。父親は私が日本に留学していることを知ったら、どんなに喜んでくれるでしょう。私が日本語を勉強するきっかけは、正に父親が残してくれた誕生日のプレゼント、その父親の願いがこもったと言ってもいい日本語の本でした。それ以前は、特に興味を持っていたものもなく、将来どんな仕事

に携わりたいのか、まったくわからないというより、むしろ、一度も考えたことがなかった私は、日本語を勉強して初めて、語学そのものに興味を持つようになり、そして、人生の目標や方向などを見つけたような気がします。勉強しているうちに難しいと思い、あきらめようと思うこともあります。そのたび、「これぐらいのことで気を落としてはいけない。成せば成るの精神でがんばってみなさい。」と父親の励ましてくれた声が耳に響いてきます。今は父親の期待にこたえ、同時通訳を目指して自分なりに努力しています。若いうちに、いろいろ勉強し、苦労するのは当然なことですから、一度失敗しても、壁に突き当たっても、くじけることなく、最後までやりめこうと思っています。

三カ月という短い間ですが、今まで経験したことのない、さまざまな味を味わいました。それらは留学生活ならではの味です。異国での一人暮らしの寂しさに、耐えられないときのすっぱい味、病気にかかって一層ホームシックになったのに、どうしようもないときの苦い味、親の臍をかじっていた自分が今は何でも自分で解決するしかないと感じたときの渋い味、もちろん、甘い味もあります。たとえば、違った言葉で、違っ

た色の肌をしている、世界各地からの留学生と友達になったときのうれしさ、皆で大阪U S Jへ行き、時空を超える冒険が終わったと思うと、スリル満点のボートツアーがまた始まったときのわくわくするような刺激的味など、それらは調味料のように、私に豊かな色とりどりの留学生生活を過ごさせてくれます。

父と別別の世界にいて、波瀾万丈の人生を私は何をたよりにして過ごしていったらいいのか、悩んでいましたが、今は違います。父が天国にいながら、私をずっと見ていて、守ってくれると信じて、また、私は父親の代わりに、年を取った母親の世話をする責任を持っています。ですから、父親を失った悲しい日日から雄雄しく立ち上がって、よく生き、よく暮らしていかなければならないのです。日本にいる時間を有効に利用し、日本語の力をしっかり身に付け、夢に向かってがんばっていこうと思っています。これこそ父親に贈ってあげられる最高の父の日のプレゼントだと思います。

憎らしかった母

王 思陽（中国） オウ シヨウ

優秀賞（上級）

だれでも自分の母が好きなのではないでしょうか。しかし、私は子供のころ、母への恨みでいっぱい母の気持ちが理解できませんでした。

小さい時から「自分のことは自分でやりなさい。」と母に言われて、顔を洗うのも服を着るのもふとんをたたむのも自分でしていたものです。

私は、五歳の時盩厔のおばさんの家に行きました。盩厔の小学校に入りました。その時私はこの学校で年齢が一番低かったので、みんなはめんどろをみてくれました。私は毎回の試験で満点をとりました。

忘れられないのは私が学校に通っている時のことです。クラスメートのお父さん、お母さんはみんな学校まで送り迎えをしてくれていました。それを見て私はうらやましくてたまりませんでした。

私はおばさんに「なんでおばさんとかおじさんとか学校まで送り迎えをしてくれないの？」と言って聞きました。おばさんは「あなたのお母さんは私に何でも自分でさせるように言ったんですよ。思陽、自分のことは自分でやりなさい。そんなことだめだよ。」と私のほっぺたをつねっ

て言いました。あの時、やり切れない気持ちになって学校へ行きたくない気分になりました。

私に知らせずに母は盩厔へ来ました。ある日、母がおばさんと話す内容が聞こえました。その後、私はいろいろなことを考えました。ほんとうは母は私のことが好きで心配してくれていたのかもれません。やっぱり私は母のことを誤解していました。私はだんだん母の気持ちが分かるようになりました。

七歳の時、沈陽に帰りました。正式に小学校にはいりました。学校に通っている時、両親は学校まで送り迎えをしませんでした。でも、私はもう慣れました。一人で学校に通うことができました。

先生は私に「あなた、一人で学校に通うことができるて、すごいな。」と言いました。あの時、私は言葉では表せないほどうれしかったです。

私は中学生のころから日本にアコガれを抱いていました。中学三年生の時、母からもらった《私たちの留学生活》を見ました。《私たちの留学生活》という記録映画は、中国で全国的に放送したことから、大きな反響を呼び

ました。この映画の作者は四年間かかって、留学生たちの追跡取材をしました。日本での生活の幸せ、苦しみが観衆を感動させました。

中でも、私が一番忘れられないと思ったのは、韓松という人の留学生活です。今でも、彼の生活の様子が目に浮かびます。彼は日本へ来て、東京にある古くて狭い部屋に住みました。日本のことについて全然分からないです。彼にとってアルバイトも探しにくいのです。国から持ってきたお金はだんだん少なくなってきました。「むずかしいなあ、どうしたらいいかな。」と考えています。毎晩一人で、部屋のまどに向かってじっと座って自分の生活は地獄のようであると思っています。国へ帰ると、みんなに笑われるだろうと思っています。それでも、彼は大学に入るまでと決心しました。毎日おそくまでアルバイトをして、お客の残した料理を食べます。また一生懸命日本語を勉強しています。そのようにして四年間すごしました。彼は日本の明治大学の商学部で勉強しています。自分の夢を実現することができたのです。

私はこの映画を見て、なんともいえない気持ちになりました。今日本にいる私には、その留学生の幸せ、苦しみがよくわかります。

私は高校一年生の時、学校の寮に

住みはじめました。学校の寮に住んでいる間に困ったことにいっぱい出会ったけど、私は全部しっかり解決しました。同じ寮に住む友達は私と同じようにはできませんでした。先生は「あなたは何でも自分でできるね、えらいねえ！」と褒めてくれました。私は大変うれしかったです。

私は高校を卒業して、日本へ来ましたが、はじめて外国にいるという気持ちは全然ありませんでした。自分で生活することにもうすっかり慣れました。もう自分のことは自分でやれました。

日本でアルバイトする時、本当に楽です。私の仕事は中華料理の店でお皿を洗うことです。国にいる時、家で食事後、母は私に「お皿を洗いなさい。」と言いました。今、私は母の意図を知りました。アルバイトを体験すれば、両親の苦勞を知ることができます。それにアルバイトでもらったお金で学費を払うこともできました。

母のきびしい教育がなかったら、今の私はなかったでしょう。今まで母のおかげで私はほかの人より早く自立することができました。今では母への感謝の気持ちでいっぱいです。私は本当に母にお礼を言いたいです。

「お母さん、ありがとう。」

幸 せ

刘 柳 (中国) リュウ リュウ

優秀賞 (上級)

そもそも「幸せ」とは何でしょうか。

ふつう「幸せ」という場合には「幸せの対象」か「幸福感」のいずれかを指しています。「幸せの対象」とは夢や目標の達成、愛の獲得、何か手に入れられるもの。「幸福感」とは幸せの対象によって感じられるものです。幸せの対象があっても幸福感が得られるとは限りません。たとえば、いい家に住んでいる人や金持ちの人や、成功をした人や、素敵なパートナーがいる人など他から見たら幸せそうな人でも本人が幸せを感じているかどうかはわかりません。

私は「幸せそうな幸せでない人になりたくない」と思っています。幸せを持っていてもその幸せを感じられなければ価値がないと思います。人がどう思おうが、環境や物質に恵まれていようが、自分が幸せを感じられなければ意味がないということです。

「幸せは星の数ほどある」というフレーズが気に入ってよく使っています。星が数えきれないほど存在することは事実です。

人生にたくさんの幸せがあります。

いろいろな幸せがあります。すべての人が持っている幸せがあります。この世に生まれた幸せ、今生きている幸せ、生活できる幸せなどです。幸せな出来事、幸せな時間を過ごすこと、幸せな出会い、生きがいのある幸せ、夢を持っている幸せ、愛のある幸せなどです。

でも「××がないと幸せになれない」と思い込んでいるかのように生活している人もいます。いい学校や会社に入れないと、出世や成功しないと、金持ちになれないと、いい人と出会えないと、結婚しないと、何かを手に入れないと、強くなれないと等。

「幸せはたくさんある」と考えられる人は、一つの幸せが得られないからと言って不幸にならなくてもすむはずです。

頭でわかるのと心でわかるのとでは違うのかもしれませんが。また、その時の状況によっては「幸せはたくさんある」とはなかなか思えない時もあります。たくさんある幸せの中から自分で選べばいいのです。その時に大事なものは何かにとらわれない

自由な心だと思います。自分の幸せを見つけられないのも不幸を感じてしまうのも何かにとらわれている場合が多いような気がします。

幸せを感じるためにはまず自分の幸せに気づけるということが肝心です。「幸せ」というと自分がこれから得たいと思う幸せだけ考える人がいますが、それは今はまだ自分の幸せではありません。今幸せを感じることもできません。幸せというと「大きな幸せ」しか考えられない人もいますが、それでは気づける幸せは少ないでしょう。「小さな幸せ」にも気づけるようになれば、それだけ多くの幸せに気づけるのです。

幸せに気づけるようになるためには日頃から幸せを知ることが大切です。幸せになりたいのなら、せっかく出会った幸せを見過ごしてしまうのも、もっている幸せに気づけないのも、もったいないと思います。

自分の幸せに気づき、自分の幸せを知ることの次には幸せを感じる事が大切です。幸せになるためには何かを手に入れたり、現実を変える方法がふつうです。もう一つ現実が変わらなくても「今、幸せ」と思えるようになるという方法があります。前者は「××なら、幸せになれる」という考えで、後者は、「今のままでも幸せになれる」という考えです。

「今、幸せ」と思えるようになることは自分の心の問題だけです。自分の心がけと努力しただけでできることだと思うのです。

人は生きていく中で、悩みや問題を抱えます。でも基本的な幸せは変わりません。また時には不幸な出来事も起こります。でも基本的な幸せを失うことはめったにありません。

幸せに暮らせるようになるためには今を大切にすることが大事です。確かなのは現在の幸せです。幸せを感じている今は間違いなく幸せなのです。

「将来のため」と今を生きている人がたくさんいます。それは決して悪いことではありません。でも、そのために今の生活の中でぜんぜん幸せを感じられないとしたら、問題があるのではないのでしょうか。

今やらなくてはならないこと、将来のためにやる必要があるのは当然です。それらをやる際に、イヤイヤ、我慢してやるのと少しでも愉しめるように工夫しながらやるのとではどちらがいいのでしょうか。

いい精神状態を維持し、いい気分転換をすることが将来のためにやることをよりよく続けるためにも役に立つはずです。そのためにも、今を愉しむ時間が必要なのだと思います。

今を大切にするためには今を幸せ

に過ごそうと意識できるかどうか、
今を愉しむ工夫をする習慣がもてる
かどうか大きな課題です。

幸せになるためには「自分で探す」
しかありません。自分がもっている
幸せを知っていればほんとうに幸せ
になれます。

自分がこれから感じたい幸せが得
られるように努力すれば、その幸せ
を感じられ、自分を幸せにできる可
能性があるのです。

いろんな幸福感があります。

楽しい、うれしい、気持ちがいい、
安らかな感じ、ワクワクするような
期待感、様々な感動、充実感、達成
感、様々な愛の感じ、しみじみとし
た幸せ等。

自分の幸せをあまり知らずに人生
を終えるのはもったいないのではな
いでしょうか。

まだ出会っていない自分の幸せも
たくさんあるはずです。

自分の幸せを探しながら生きてい
けばいいのではないのでしょうか。

私はチリからきました

広瀬パブロ（チリ）

審査員特別賞（上級）

数日前に私はインターネットで国の新聞つまり、チリの新聞を読んでいた。その新聞によると今年の五月の末に東京でチリと日本の経済委員会が行われました。この会議では各国代表団が、チリと日本の可能性のある自由貿易協定について色々分析しました。この会議の結果の協定が具体化する日が近づいているはず。このニュースを読んだ時、私はこれはいいと思ってうれしくなりました。というのはチリにとって国の発展のために国際商業というのは非常に不可欠だから。日本にとってチリは小さい経済ではありますが、南米の市場に入るゲートとして重要な国だとよく言われています。

そこで、今までチリと日本はどういう関係があるか、考えました。少し調べてみるとやはり主に貿易の関係です。残念ながら、文化交流は非常に少ないと思います。もちろんきりが一つの理由に違いありません。また、チリでは日本人と日系人は三千五百人しかいないし、日本に住んでいるチリ人の人数もとても少ないです。そしてインターネットによると日本がチリと初めて接触したのは1867年

のことです。その年ある日本の船がチリの海岸に着きました。なぜならその時代、日本は新しい商業ルートを探していたからです。しかし、この百年以上の交流の中で複雑なこともありました。1945年4月、第二次世界大戦の時チリはアメリカの同盟国として日本に宣戦布告しました。この悲しい時代以外日本とチリの関係は一般的によいです。

でもチリ人は日本についてどういうことを知っているのでしょうか。同様に日本人はチリについてどういうことを知っていますか。少し考えてみると実はどちらの国もあまり知らないし、知っていることは表面の部分だと思います。私は日本に来てもう一年あまりになります。大阪に住んでいると日本人からチリに関して様々な面白いことを聞かれることがあります。「チリ？おいしいワインですね、フランスのワインより安い。」それを聞くと私はなつかしくなつて向こうの赤ワインを飲みたくなります。「チリ？スーパーでチリのサーモンとチリのぶどうを買ったことがある、おいしいですよ。」それを聞くと私は「おいしいですよええ。」

と答えて、母の料理を食べたくなります。「チリ？イースター島、行きたい。」それを聞くと、「私もあそこへ行きたい。」と言います。「チリ？あつい所ですね。」それを聞くと私は一瞬ぼかんとして「どうしてそう思いますか。チリには大阪の夏ほどあつい地方はないですよ。」と応じます。「チリ？チリソース。」それを聞くとげらげら笑って、チリとチリソースのチリの相違を説明してあげます。「チリ？サラスとサモラノ、サッカーうまいですね。」それを聞くと喜びにあふれ、国を誇りに思います。でも、正直に言えば、何回も言われたことはなんといっても、「チリ？アニータ。」それを聞くとはずかしく感じます。アニータのせいでチリの評判が悪くなるのではないかと思います。

では、チリ人は日本についてどういうことを知っているか、そして日本はどういう国民だと思っているでしょう。聞いたら恐らく面白い表現が出てくると思います。「日本？スチ。」つまり寿司。「日本？ゲイシャ。」つまり芸者。「日本？いい車、ミツビシとオンダ。」つまりみつびしとほんだ。「日本？あそこの人達は働きすぎるでしょう。そして仕事が終わってからごはんばかり食べますね。」「日本？日本のアニメ、すばらしい。」私は子供のころ、マッ

ハゴーゴーゴーや花の子やマクロスやキャンディキャンディやマジンガーZや月光仮面など兄といつも見ていて楽しく過ごしました。思い出始めると本当になつかしくなります。日本の人物と言えば「イロイト。」つまり裕仁天皇が有名です。あるいはミスターみやぎ、つまり空手キッドというアメリカ映画の空手の先生。

チリ人はアジアから来た人物ほどこの国民なのか全然見分けがつかえません。私は日系三世だから子供のころよく聞かれたことは「あなたは中国人ですか。」「そうじゃないですよ、私の祖父母は日本人ですけど私はチリ人ですよ。」と怒った顔で答えました。

本当のことを言えば互いの知っていることはとてもとぼしいです。まして、日本とチリは文化と考え方だけでなく違うことが様々あります。例えば日本の宗教は主に仏教と神道で、チリの場合はカトリックです。そして、日本では米はなくてはならない食べ物ですが、チリ人にとってはパンの方が必要です。日本ではラッシュアワーのしょうちょうとして満員電車がありますが、チリは満員バスです。日本の女性達は白い肌の方がきれいだといわれていますが、チリの女性達は日焼けをするのが大好きです。チリと違って日本はスイカがすごく高いです。デパートでも売ってい

ます。日本では大学を卒業するより入る方が難しいですが、チリでは入るより卒業する方が難しいです。チリで日本料理のレストランが増加していますが、日本にはチリ料理のレストランは二つしかないそうです。時差で日本人がいっしょうけんめい働いている時間にチリ人はぐっすり寝ます。最後に日本の旗には太陽がありますが、チリの旗には星があります。

けれども似ているところもあると思います。まず、両方とも細長く、山が多い国です。チリと日本は火山と温泉が多いので、残念ながら地震がしばしば起こります。チリ人と同じように日本人は普通親しみやすい。少し失礼かもしれませんが、チリと日本ではブッシュ大統領はあまり人気がないと思いますが、ベッカムなら特に女の子に好かれています。最後にチリの女性もきれいですが、日本の女性もきれいです。

チリと日本がかなり違う国だからといって理解が出きないというわけではありません。これからも、貿易だけでなく交流や理解が深まっていくことを願っています。

講評

審査委員長 佐藤 俊一

この作文コンクールも12回を迎え、「えと」がひとまわりになった。

この講評を書くにあたり、講評とはどうあるべきものなのか考え、もう一度過去の作文コンクールとその講評をすべて読ませていただいた。

第一回の審査委員長はなにを隠そう私なのであるが、その講評はなかなかうまくかけていると自画自賛している。その後は審査委員長によってひとつひとつの作文にコメントをつけて講評している年度もあれば、簡単に感想を述べている年度のものもあり、審査委員長の個性が読み取れる。

また、審査方法の変更もあったが、選ばれた作品はいずれも立派で今読み直してみても深い感動をおぼえるものが多い。

12年前、私が審査委員長をした時には審査委員の間に作品の評価が分かれて激論が戦わされたこともあった。それだけ皆がこのコンクールにたいする意気込みがあった表れであろう。たしかに、審査委員によって推薦する作品がまったく違っているものもあり、今回も審査委員長として判断に迷う事もあった。

それは審査委員によって作文のどの部分を重要視するかによるところが多い。

例えば、作文の文字がきれいとか、言葉の用法の誤りを重要視するかどうか、また、たんなる見聞でなく、自分の意見や考えを重要視するかによって推薦される作品が異なってくる。

やはり最後はその内容が読む人に感動を与えたり、ものの見方、感じかたに新鮮な驚きを与えたりする作品が優れたものとなるであろう。ただ、それすらも審査委員によって評価がことなるので、最後は審査委員長の見識（独断？）と好みによって決まる。そのためには審査委員長は毎年変わるのが、入選作の多様性が出て好ましいと思われる。

以下各クラスごとに簡単にコメントさせていただきます。

初級

代表に選ばれた11作品は8カ国の留学生からよせられたもので、非常に国ごとにバラエティにとんでいた。最優秀賞の邛运さんの作文はきわだっ

て字がきれいだったのが評価された。韓国の金志泳君の作文は韓国の徴兵制度の功罪を垣間見たかんじで、私にとって印象深かった。モンゴルのウーガンバイル君とブラジルのケンパーパウロ君の作文はいずれも甲乙つけがたかったので両者とも審査委員特別賞になりました。

選外の作文のなかでもすぐれたものがあつたのでコメントしておきたい。

ネパールのプナムラマさんの「一生わすれません」は親友の死によって日本で勉強することになったドラマがあり、また呉菊華さんと張岩さんの作文は母であり子である自分の立場より親子の情愛を語ったもの、マレーシアのチョンジュンフェイさんの親に感謝する気持ちをかいたものなど書き手の感情が読むものによく伝わってよかった。インドネシアのニザルダリアさんの作文は日本の友達との交流にユーモアのセンスがあつてほほえましかった。

中級

9部の代表作は、初級と一転し、審査委員特別賞のリーさん以外は漢字圏の作であつた。

最優秀賞の作文も偶然初級と同じく「花見」に題材をとつたものであつた。

留学生がはじめて来日した頃がちょうど桜の花が咲いている事もあつて日

本での最初の印象として心に残るのであろう。これは毎年の傾向であり、まさに「年々歳々花相似たり、年々歳々人同じからず」である。

入賞作文の評価はあえて読者にゆだねる事とし、選外の作の中からコメントさせていただく。

韋敏毅さんの「音楽の魅力」は音楽によるコミュニケーションの魅力と作者の音楽にたいする思い入れがよく表れていた。蔣雪勤さんの「子供の目」は子供が大人の気がつかない災害を察知する能力に言及し、中国の危機管理についての評論もあつて他にないユニークな題材であつた。

上級

審査委員の評価が大きくわかれたクラスではあつたが、入選作のいずれも文章の構成力、論理的思考、表現力などさすが上級クラスと思われるものばかりであつた。

選外では王冬君の「私の留學生活」が中国と日本の文化の考え方、行動の違いを自分の経験のなかから具体的に述べていたのが目を引いた。

また、刘礫岩君の「夢の存在価値とは」は夢が人類の進歩を生み出した例を述べつつ、夢をみる事で自分の可能性を開けようとする姿勢が好感を持てた。

すべてのクラスを通じて紹介したい

作文も数多くあったが、紙面の制限上仕方がないのは残念である。

応募者の諸君にはこれを機会にますます日本語の能力を磨き、それぞれの留学目的を果たされるよう祈念しています。

最後になりましたが、大阪日本語教育センターの先生方にご協力感謝申し上げます。

**第12回 日本語作文コンクール
審査委員会**

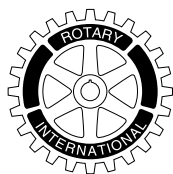
**大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金運営委員会**

(2005 ~ 2006)

審査委員長	佐藤俊一
審査委員	
(初級)	中村善尚 高橋正明 田中英司
(中級)	石川治均 村瀬景三 音在秀信
(上級)	水間頼孝 松岡茂雄 山本良一

委員長	佐藤俊一
副委員長	中村善尚
委員	石川治均 水間頼孝

禁・無断転載（転載ご希望の向きは下記にご連絡下さい）



**大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金運営委員会**

〒 534-0026 大阪府大阪市都島区網島町 9-10 太閤園内
電話 06-6357-8171 FAX 06-6357-8011